
バカと幼馴染と召喚獣IF (このバカと幼馴染と召喚獣にまよチキ！の人達が加わります)

takumi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと幼馴染と召喚獣IF (このバカと幼馴染と召喚獣にまよチキ！の人達が加わります)

【Nコード】

N8524W

【作者名】

takumi

【あらすじ】

これは自作のバカと幼馴染と召喚獣にまよチキ！メンバーを加えた物語です。原作& amp; キャラ崩壊ありますのでご注意下さい。

設定

・設定

- ・物語は1年生になってから1ヶ月後からスタートします。
- ・坂町兄妹はでない予定もしかしたらだすかも
- ・オリ主は近衛をスバル。涼月を奏。宇佐美をマサムネと呼ぶ。
- ・明久は近衛をスバル。涼月を奏さん。宇佐美をマサムネと呼ぶ。
- ・スバルはオリ主を名前。明久をアキと呼ぶ。(他苗字)
- ・涼月はオリ主、明久共に名前呼びで君付け。(他苗字で君付け)

・CP

- ・オリ主×奏& amp ;マサムネ& amp ;オリキャラ
- ・明久×スバル& amp ;秀吉
- ・雄二×翔子
- ・康太×愛子
- ・第一オリキャラ×美波
- ・第二オリキャラ×姫路
- ・第三オリキャラ×優子

第一問お、女の子？（前書き）

早速原作 & a m p キヤラ崩壊しています。

第一問お、女の子？

・明久side

「えーっと…：すみません。間違えました」

どうも皆さん。僕は吉井明久と言います。文月学園の1年生です
えーっと只今の状況を説明しましょう。

今僕はトイレに居ます。まあ、ちよつとお腹の調子が悪くて来たんですけど、トイレのドアを開けたら先客が居たんですよ。その先客があるう事か近衛スバルさんなんですよ。ついでに、近衛さんの説明を少ししましょう。

文武両道。容姿端麗。眉目秀麗。偉才秀才。全てが揃ってるパーフェクトな少年近衛スバルさん。そんな近衛さんの事を皆はスバル様と呼ぶ。そして1番驚くのはスバル様の職業だ。そうスバル様の職業は執事である。

まあ、僕は執事を何回か見てるから特に驚かなかったけど…：ついでに、なぜ何回も見たことがあるかと言うと、僕の幼馴染の北条銀河は世界をまたにかける北条グループの1人息子なのである。その関係で何度か見た事があるのです。

話がそれましたね。さて、トイレで近衛さんを見たまではいいんですけどね。何故か近衛さんが女物の下着をつけて居たんですよ。

もう、ビックリしましたよ。男の子であるはずの近衛さんが女物の下着をつけて居たんですからね。

そう言えば前銀河が『近衛って女みたいだよな』って言ってたけど…
銀河大当たりだよ。

「おい…」

「はい…」

今まで黙っていた近衛さんが僕に話しかけて来る。殺気をだして。

ごめん。銀河…生きて帰ってこれるか凄い心配になって来た。

・明久side out

・銀河side

「遅いな〜明久の奴」

どうも北条銀河です。一応この作品の主人公をやらせて貰ってます。

「トイレすませるのに何分かつているのやら…」

ちなみに明久とは幼馴染&親友です。

「電話かけるか…」

携帯を取り出し明久の番号にかける。コール音が何回か鳴って明久がでる。

「もしもし。明久か？今何をやってるんだ」

『もしもし…』

あれ？この声明久じゃないな。これって、確か近衛か？

「お前もしかして近衛か？」

『ああ…』

「何でお前が明久の携帯にでるんだ？」

『吉井が気絶してるからだ』

「気絶？何で」

『理科室でビーカーが沢山落ちて来て吉井が咄嗟に僕を庇ったらビーカーが当たって今血を少しだして気を失ってる』

「そうなのか…まあ、明久らしいといえづらいが…取り合えずお前の主人連れてそっち行くからおとなしくしてるよ。じゃあな」（ピッ！）

最後にこう告げて電話を切る。さて…

「涼月奏はどこだ？」

涼月奏。近衛スバルの主人でありこの文月学園の理事長の1人娘である。

「あら、呼んだ？」

「ん？涼月。俺はかなり小声で言ったはずなんだが…」

「偶然よ偶然。それより何か話があるんじゃない？」

「ああ。俺と来てくれないか？」

「いいわよ。それじゃあ行きましょう」

そう言って涼月が俺の手を取る。

しかし、明久が気絶何て珍しいな。

・理科室

えーっと…今分かった事を少し話そう。

・近衛が女だという事。

・明久が血を流しながら気絶している。

何だこれ？取り合えず明久を拾って保健室に向かった。近衛と涼月と一緒に。

第二問「こじはぎ」?

・明久side

「…ん?あれ?「こじはぎ」?」

確か僕は近衛さんにおかけられて理科室に逃げて…えーつと…
…そうだ。近衛さんにピーカーが落ちそうになって近衛さんを庇って
気絶したんだ。

「包帯も巻かれてるし、間違いないよね」

場所も保健室みたいだし…けど、一つ気になる事が…

「誰が僕を保健室に運んだんろう?近衛さんかな」

「いや、運んだのは俺だ」

「銀河?何時の間に?」

「今、来たんだよ。しかし、2時間も気絶してるとは…」

「えっ?そんなに気絶してたの?」

「ああ」

授業サボっちゃったな〜鉄人の補習があるかも。

「あ?そう言えば近衛さんはどこ?」

「あいつらは、向こうに居るぞ。会いたいなら今呼ぶけど…どつす
る?」

「呼んでくれないかな。まだ頭がクラクラするし」

「分かった。ちょっと待ってる」

そっけいって銀河は僕のいるズミットから離れた。

第三問友達になろうよ

・明久side

「おい明久く連れて来たぞ」

「うん。分かった今開ける」

銀河が近衛さんを連れて来てくれたようで、ベットを区切っていたカーテンを開ける。まずはちゃんと近衛さんに謝らないとね。

「あら、結構起きるのが早かったのね。怪我大丈夫？吉井明久君」
「ふえ？」

しかし、銀河が連れて来たのは近衛さんのご主人様の涼月奏さんだった。

因みに涼月さんは文月学園の理事長の娘さんである。2年になつたら学年主席確実とも言われている。しかも、運動もでき顔やスタイルも良いと完璧を極めた人である。

(因みに、理事長とは趣味で通っている料理教室で知り合い今ではメル友である)

「えーつと何で涼月さんがここに？てか近衛さんはどこ？」

「スバルはあつちよ。ところで私はあなたの事をなんて呼べばいいのかしら？」

「え？えーつと…銀河はなんて呼ばれてるの？」

「名前だ」

「じゃあ、僕も名前で…それよりも近衛さんは？」

「ここよ明久君」

涼月さんが隣のベッドのカーテンを引く。

「こ、近衛さん？ど、どうなってんの？」

「知らん。俺に聞くな。やったのは涼月だ」

目の前に現れたのは鎖で体を縛られ口にはリングギヤグがつけられていた。

「どう明久君？嬉しい？こんなスバルが見れて」

「いや、全くうれしくないよ？早く外さなきゃ」

すぐさま近衛さんの所に駆け寄りリングギヤグを外す。

「ぶは？はあはあ…げほげほ？お嬢様何をなさるのですが？って！
おい吉井何をする？」

「じっとして？今鎖外すから？」

「あ、ああ…」

「くっ！結構硬いな仕方ないこれで」

僕は懐から鉄製の棍を取り出し鎖の間に入れて。

「よっど？」

鎖を壊した。

「ふう〜これで良しと…あ？近衛さん痛い所ない？どこか苦しい所は？」

「ああ…大丈夫だ」

「そう。よかった（ニコ）」

「あ、うん…／／／」

何か近衛さんの顔が赤い。何で？

「おーい、もう良いか？」

「あ？うん。で何で近衛さんは女の子なのに男の子と偽ってるの？」
「それは私から説明するわね」

説明中 詳しくは原作1巻を見てね(^ - ^) /
手抜きですみませんm(_ _) m

「なるほどね〜って？大変じゃないか？今すぐ理事長の所に行つて近衛さんをクビにするのをやめてもらわなきゃ？」

「落ちて着け明久。その件はもう俺が理事長に言った。んで、明久や俺には借りが沢山あるからそれぐらいは見逃すそうだ」

「そうなんだ〜よかつたね。近衛さん」

「ああ」

「ええ、私もホツとしたわ」

「まあ、次ばれたらアウトだがな」

「そうなんだ。じゃあばれないようにしなきゃね」

「そうね。ふふ、何か私たち共犯関係見たいね」

「お、お嬢様」

「でも、共犯関係つてやだな。そうだ？友達」

「友達？」

「そう。友達だったら特に怪しくもないでしょ。それに秘密を隠す為と一緒にいる時間もふえるだろうしね。どう近衛さん？ダメかな

…

「その、吉井は僕と友達になつてくれるのか？」

「うん。そうだよ」

「そうか。じゃあ友達の証として僕は吉井の事をアキと呼ぶからアキは僕をスバルと呼んでくれ」

「分かった。よろしくねスバル（ニコ）」

「あ、ああ／＼／＼よろしくな」

「よし、そんじゃあ帰るぞ明久。鉄人に見つかる前に」

「そうだね。じゃあまた明日ね、スバル、涼月さん」

「また明日だ、奏、近衛」

「ああ。バイバイ」

「ええ。また明日」

こうして、僕はスバルと友達になった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8524w/>

バカと幼馴染と召喚獣IF (このバカと幼馴染と召喚獣にまよチキ！の人達が加わ

2011年10月31日20時17分発行